

# 経営比較分析表

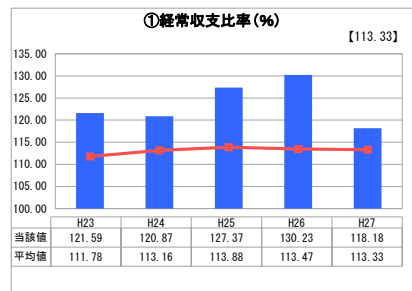
岡山県 岡山県南部水道企業団

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	用水供給事業	B
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	63.87	99.83	0

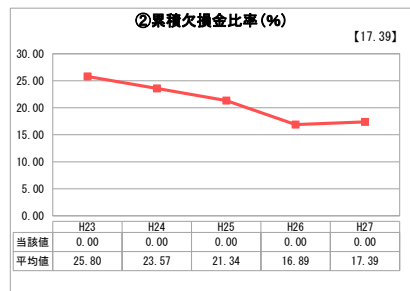
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
1,249,854	1,209.30	1,033.54

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

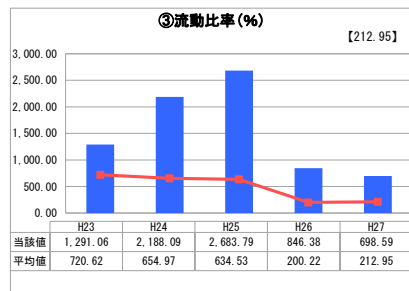
## 1. 経営の健全性・効率性



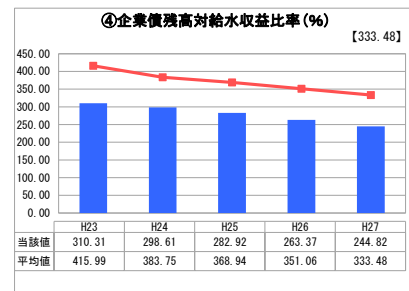
「経常損益」



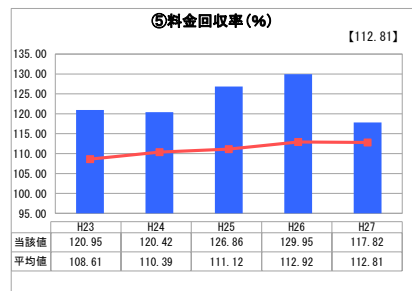
「累積欠損」



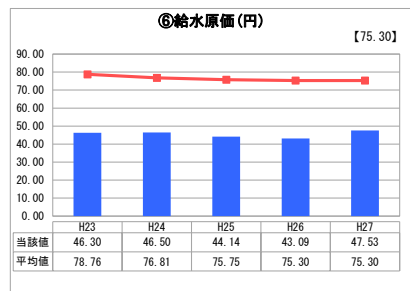
「支払能力」



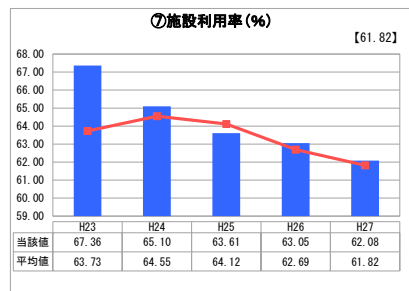
「債務残高」



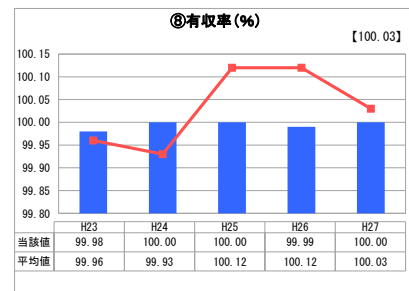
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

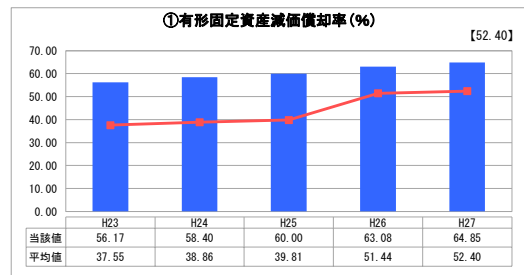


「施設の効率性」

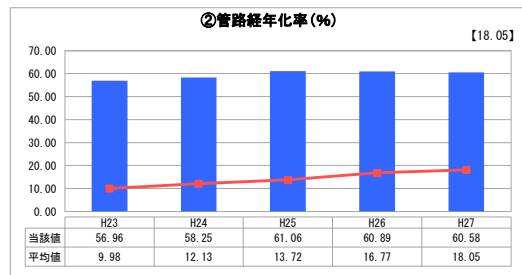


「供給した配水量の効率性」

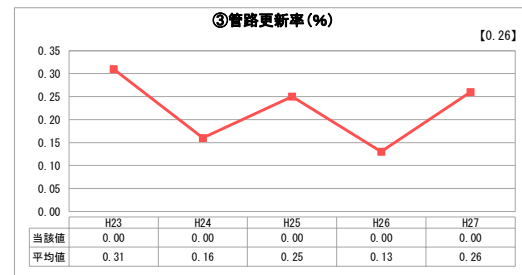
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

送水収益が減少傾向にあるものの、累積欠損金もなく、経常収支比率は100%を超えて良好に推移しており健全な水準を維持している。また、給水原価は前年度より上昇したものの、類似団体と比較して低水準であり、料金回収率は100%を超えていることから、事業に必要な経費を料金で賄うことができている状況である。短期の支払能力については、流動比率が100%を大きく上回っており問題ないといえる。

有収率は概ね100%で推移し、送水する水量が収益に高く反映されている。企業債残高対給水収益比率が類似団体を下回っているのは、必要な更新が遅れていることが一因と考えられるため、適正な施設利用率及び施設の規模を考慮した上で必要な更新を検討する必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

昭和28年の給水開始から60年以上が経過し、有形固定資産減価償却率及び管路経年化率が類似団体と比較して大きく上回る水準となっており、管路を含む償却資産の老朽化がかなり進んでいる状況である。管路の更新も平成23年度以降進んでおらず、早急に更新を検討する必要がある。

### 全体総括

経営状況について、現状は概ね健全で効率的な経営ができているが、施設の老朽化はかなり進んでおり、更新が先送りになっている。今後、大規模な更新が必要であるが、事業費が大幅に増大するため、経営の健全性を維持することは困難となってくる。今後、施設更新の基礎となる「第二次整備計画」をもとに経営戦略の策定や地域水道ビジョンの見直しを行い、増大する更新需要に対し、料金改定を含む資金の確保に努め、計画的に更新事業を進める必要がある。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。